

# 65歳以上対象

## インフルエンザ予防接種を受ける方へ

(接種前に必ず読んでください。)

※ **【変更】 新型コロナウイルスワクチン接種後、間隔をあけずに接種することができます。また、同時接種もできますので、希望する場合は接種医療機関へご相談ください。**

### 1. インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。

インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

インフルエンザの流行は、通常、初冬から春先にみられますが、ときには春期、夏期にもみられます。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。

普通のかぜに比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

また、インフルエンザは流行が始まると、短期間に小児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込むという点でも普通のかぜとは異なります。

さらに、普通のかぜが流行しても死亡する人はあまり増えませんが、インフルエンザが流行すると、特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率がふだんより高くなるという点でも普通のかぜとは異なります。

## 2. インフルエンザの予防

- ① 流行前に予防接種を受けることをお勧めします。
- ② 空気中に拡散されたウイルスによって感染しますので、人ごみは避けましょう。
- ③ 日ごろから、栄養と休養を十分とりましょう。
- ④ 室内は適度な温度と湿度を保ちましょう。ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているとウイルスが長時間空気中を漂っています。
- ⑤ 外出時はマスクを着用し、帰宅したらうがいと手洗いをしましょう。

## 3. インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められています。

我が国においても高齢者の発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。

なお、予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5ヶ月間とされています。

より効果的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前の12月上旬までに接種を受けておくことが必要です。

一般的には、**65歳以上の方は1シーズン1回の予防接種で効果があります。**

## 4. インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種後、一定の期間に次のような症状がみられることがあります。

- 予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。
- わずかながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもあります。通常2～3日のうちに治ります。
- まれに接種直後から数日中に発疹、じんましん、かゆみなどがあらわれることがあります。
- 非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがありますが、ほとんどは接種後30分以内に生じます。

## 5. 接種対象年齢

法律で決められたインフルエンザの予防接種の対象者は、65歳以上の方です。

**※ しかし、接種を受けることの義務はなく、本人が接種を希望する場合に限り接種を行います。接種を希望しない人に、原則として予防接種をすることはありません。**

## 6. 予防接種を受ける前に

### (1) 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、注意事項をよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。

気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問しましょう。

十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

**予診票**は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。**接種を受ける方が責任をもって記入**し、正しい情報を接種医に伝えてください。

### (2) 予防接種を受けることができない人

#### ① 明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。

#### ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の变化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

#### ③ インフルエンザ予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことがあることが明らかな人

また、卵等でアナフィラキシーショックを起こしたことがある人

\*「アナフィラキシーショック」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

#### ④ ①～③の他、予防接種を行うことが不適当な状態にある人

- ・ インフルエンザ予防接種後2日以内に発熱のあった人
- ・ インフルエンザ予防接種で、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を起したことがある人

### (3) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

#### ① 心臓、腎臓（じんぞう）または呼吸器の機能に、日常生活が極度に制限される程度の障害がある人

#### ② ヒト免疫不全ウイルスにより、免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害がある人

#### (4) 予防接種を受けた後の一般的注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ③ 接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

## 7. その他

### (1) 副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどくはれたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診察を受けてください。

### (2) 予防接種健康被害救済制度

インフルエンザ予防接種による健康被害救済の請求について、当該予防接種と因果関係があることを厚生労働大臣が認定した場合、健康被害に対する給付（医療費、医療手当、障害年金等）が行われます。

そのほか、不明な点は下記へお問い合わせください。

## 8. 問い合わせ

山田町 健康子ども課 健康管理係

TEL 0193-82-3111（内線612）